

## 美容師として生きる 〈サイド A / サイド B〉

LIDDELL 吉岡 彩葉  
(大阪府藤井寺市)

### ■side A

私はこの世界の一部で、この世界のすべてと繋がっている。幸せに生きたいなと願う。幸せとは心が満足している有り様のことだ。

私にとってそれは富みや名声を得ることではない。

自分の周りにいる人々が幸せにしていることだ。

家族がシラけた顔をしていると哀しい。

一緒に働くスタッフに元気がないと不安だ。

お客様が不機嫌だと脅威を感じる。

だから私の幸せは他人の幸せとリンクしている。

偽善ぶってはいない。それ相応の見返りが約束されていると思うからだ。

私の周りの人々はまた、更に他の要因とリンクしている。

遠くの国で戦争があっても、近くで森がなくなっても私は不幸だし美しく桜が咲いても、オリオン座が綺麗に見えても私は幸せだ。

すべてのものはリンクして自分に返ってくるのだ。

私は自分自身を、人と接するのは割と得意な人間だと思っている。

けれど実際のところ、人はさほど好きじゃない。これは私の性格によるものか、それとも時代性か。

どちらにせよそれではいけない。人に興味と愛情を持たないと。

人を幸せにするには、もっと<積極的な働きかけ>が必要だ。

多分このドライな時代にはおせっかいなほどの。

執拗に人を愛せる能力を持つことが大切だ。

美容師という仕事はその人のことを考えて、その人の為に行う仕事だ。

素敵なヘアスタイルを作ることは当然だが、それ以上の感動を味わってもらうには行動力がある。

考えて走る。すぐに。プラス1のお土産も忘れずに。

おせっかいな美容師として仕事してみたい。

きっと私のこの変化は、この世界を変えていく。

### ■side B

これからの美容師に必要なものは「覚悟」である。

美容は、いや、私が知っている限りの美容師という職業は、少しハードだ。

休日は少なく、拘束時間も長い。技術力と人間性の両方が求められる。

一日中立ちっ放しの体力がいる仕事だが、その割には給料は安い。

でもだからといって、他の仕事が楽なのだろうか？いや、どんな仕事も決して楽なものなどない。

もっとより良い自分がいるのではないか、流行の自分探しの旅に出してしまうスタッフをたくさん見た。

でもそれを見る度、私は思ってしまう。逃げではないかと。果たして成りたい自分に辿りつける人間などいるのだろうか？

私たちは恵まれすぎているのだ。

世界中を見てみよう。仕事のない人。飢えて死ぬ人。戦争で死ぬ人。

そんな人たちに比べて何が不満か。なさけなくなるのか。

私たちが持たねばならないのは「考える力」だ。

もっとリアルに今を把握する必要がある。もうふわふわしてられない時代になっている。

「～かも」という可能性を追い求めるのではなく「こうするしかない」というタフな考えを持つ。

「頑張る」という言葉はなんだかニュアンスが違う。

「運命を受け入れて、飛び込んでみる」という言葉がしっくり来る。

自分を生かすのは自分である。

美容は夢でも目標でもなくて、現実である。

生きるためには仕事は必要不可欠なもの。すでに生きること、と仕事、は直結している。

私はこれから先の未来に、逃げずに立ち向かって行きたい。前がどうなっているのかまだ見えないけど、どんな人生だったとしても意味があるから。